

報告**世界天文年 全国同時七夕講演会の報告****～香川大学の場合～**

松村雅文（香川大学教育学部）

香川大学では、「宇宙誌を読む：天体から生物まで～望遠鏡 400 年・ダーウィン生誕 200 年・『種の起源』出版 150 年記念」というタイトルで、七夕講演会を行いました（2009 年 7 月 7 日、18 時から。香川大学教育学部 教養地学実験室にて）。七夕講演会は、世界天文年 2009 での日本天文学会主催、当会が共催の講演会であり、本来の趣旨は“天文の講演会”ですが、天文屋だけ（こちらは私一人）で行うには、何かと限界があると考えました。今年 2009 年は世界天文年のみならず、進化論で有名なチャールズ・ダーウィン生誕 200 年であり、彼の著書『種の起源』が出版されて 150 年でもあります。そこで生物の方に参加していただくのが適当だろう、また関連した話も是非聞いてもらおう、と構想しました。こう考え、講師は私の他に、本学の理科教育講座教員の松本一範(生物学)、寺尾徹(地球物理学)、北林雅洋(理科教育、科学史)の各先生にも担当してもらおうことにしました。

内容は、まず私が「ガリレオと世界天文年」というタイトルで、1609 年頃のガリレオが行ったこと（望遠鏡の製作・これを用いての観測・成果の出版）を紹介し、香川大学での天文学（観測）も写真で見えていただき、最後に世界天文年の主に世界企画を紹介しました。次に生物の松本先生に、「進化とは何か？」のタイトルで、進化についてを説明していただきました。一般の言葉としての“進化”の使い方（例えば「ポケモンの“進化”」）は、生物学での元々の“進化”の概念とは、かけ離れているようです。また気象がご専門の寺尾先生には、「ベンガルデルタと宇宙誌」のタイ

トルで講演いただき、バングラデシュのベンガルデルタそのものが、ミランコビッチ・サイクルにともなって盛衰を繰り返しているらしいなどの話を紹介してもらいました。最後に、科学史の北林先生からは、「ガリレオのこだわり」ということで、ガリレオが、当時、どのような観点で研究をおこなったのか、アリストテレスの宇宙観も含めて、講演いただきました。



図 1 講演会のようす

参加者は、約 20 名でした。大学内からの参加が多かったのですが、新聞やポスターを見て来られた方々もおられました。アンケートでは、みなさん、ほぼ満足された様子がわかり、企画した当人としては、ひとまず胸を撫で下ろしています。

講演会の後、天候が良ければ、屋上の望遠鏡で天体観望を行う予定でしたが、曇天で行えず、次回以降の課題となりました。